

## PETセンターの紹介 宮川正男PETセンター長インタビュー ～最新のPET検査で、がん、炎症、認知症の的確な診断をめざす～

当センターでは、全身の悪性腫瘍（癌細胞）や活動性の炎症細胞を発見するため、ブドウ糖に良く似た性質を持つFDGという診断薬を静脈注射後に、PET（陽電子放射断層撮影）装置を用いて検査を行っています。2010年の開設以来、初年度の834件から昨年は1,783件まで件数は増加して、8年間でのべ12,187人に安全に検査を受けて頂きました。悪性腫瘍（癌）の病期診断および転移・再発の診断目的が9割以上とほとんどですが、特殊な前処置を必要とする心サルコイドーシスにおける炎症部位の診断も施行しており、全国有数の検査数となっています。本年4月からは新たに高安動脈炎等の大型血管炎の診断も保険適用に追加されました。



インタビューに答える宮川センター長



当院のPET装置

また、認知症の検査として、脳へのアミロイドの沈着の有無や程度を可視化する新薬の保険適用が予定されています。

来年度には、さらなる検査数の増加に対応すべく、高分解能かつより高速撮影が可能な新型PET装置の導入が決定しました。今後も患者さんに最新の検査を受診して頂けるように取り組んで参ります。